

ねばならない。そのために、日本の新生に向けた「イノベーター日本創り」の国民運動を提唱する。

その共通認識のもとで、上記に提言した「科学技術・イノベーション・教育一体推進会議」では、内閣総理大臣、関係閣僚、科学技術界と教育界議員および産業界議員の構成で、次の3点の重要視座に立つた司令塔機能の発揮が求められる。

重要視座1…産学官が共有できる「科学技術駆動型イノベーションプロセスの基本設計図」(図1参照)をつくり、産学官のあらゆる場面でテンプレート的に共用する。例えば、政府の各省庁にまたがる投資の連関と横串の見える化や、提案された基礎研究企画、応用研究企画などが受け持つ「知の創造から社会経済的価値の創造」までのイノベーションプロセスにおける立ち位置(インプットとアウトプット)の見える化、それらの投資に対する評価とフォローにも活用する。併せて、各種の産学官連

携に係る制度設計の見える化とPDCAマネジメントにも活用する。

限られた政府と産業の原資を有効に活かすために、この「科学技術駆動型イノベーションプロセスの基本設計図」を共有し、絶えずイノベーションプロセスの各分担を確実に指揮監督する司令塔が極めて大切である。上記にて提案した「科学技術・イノベーション・教育一体推進会議」は、この司令塔機能を発揮することが求められる。

重要視座2…日本のイノベーション、牽引エンジンの脆弱性を見える化し、日本の特色を活かした価値創出力強化と人材育成に向けた設計図をつくる。これを産学官が共有化し、日本の大学を国際基準へ引き上げるための強化策、研究開発型独立行政法人の強化策、産学官連携強化策の制度設計などに活用する。
特に注力すべき施策は、大学・研究開発法人・産業を結ぶ「価値と人材のフロー&インターフェースの

制度的改革と実践」である。

重要視座3…「負のスパイラル構造」にある「財政、経済、社会保障」を、「産業振興」「科学技術振興」、および「教育振興」の三位一体推進によって、「正のスパイラル構造」に転換する。「イノベーター日本創り運動」の基本構想を推進する。「1000兆円を越す財政の借金、年間1・3兆円の自然増加が発生する社会保障、さらには産業の収益力低下に伴う税収の低下」に象徴される「沈み行く日本の負のスパイラル構造」を、「日本新生に向けた正のスパイラル構造」に還元する必要がある。そのためには、まずは産業の収益力を回復する「イノベーション振興投資」の充実が重要である。
同時に、その源である「科学技術振興投資」と、それを持続可能なイノベーション牽引エンジンとするために必須の「教育投資」とを、三位一体的に振興していくことが重要である。
以上、「イノベーション・科学技術・

教育の三位一体推進」と、それぞれの実行分担責任体制に落とし込んでいく「科学技術・イノベーション・教育一体推進会議」の司令塔機能発揮の成否は、「イノベーター日本創り運動」の成否を決すると言っても過言ではない。

結び

危機的状況にある「沈み行く日本」の新生に向けた国民運動として、「イノベーター日本創り運動」を提唱した。この実行に向けて残された時間は極めて少なくなっているという危機感を、政府も政治も国民も自覚して、小異を捨てて大同に就くことが今の日本にとって緊要である。
同時に、教育界も科学技術・学術界も産業界も「沈み行く日本」を再浮上させ、次代にその成果を誇ることができ、「科学技術・イノベーション・教育の三位一体推進」と「イノベーター日本創り運動」に参加し、貢献する使命を持つことを自覚せねばならない。

Opinion File